

日本海の文化再発見

北東アジア交流IN金沢2003 民族音楽が聴衆を魅了

日本海沿岸の十一府県と北東アジア諸国との交流を促進しようと、「北東アジア交流プロジェクトIN金沢2003」が十三日、約五百人が出席し石川県金沢市の県立音楽堂で開かれた。思想や風土、伝統芸能、民族音楽などについて、北東アジアとのかかわりを探り、日本海側の文化を見つめ直した。

「北陸の伝統文化と北東アジア」をテーマにしたシンポジウムでは、来年四月に雄和町に開学予定の国際教養大学長予定者で、前東京外語大学長の中嶋嶺雄氏が基調講演した。「文化圏としての北東アジアを考える」と題し、中華思想や儒教、

ユーラシア主義を紹介した上で、日本が武土道などの精神を基盤に、アジアや欧米の文化、思想を受け入れてきた事情を説明した。

パネルディスカッションでは、中嶋氏をはじめ、国立歴史民族博物館名誉教授の小島美子氏、金沢学院短大教授の松田章一氏、能楽師の殿田謙吉氏の四人をパネリストに、北国新聞社(本社金沢市)の稲垣渉編集局長がコーディネーターを務めた。

小島氏は「日本海側の民謡には、中国本土や朝鮮半島、モンゴルなどと同じ民謡音階が多く、中でも秋田県の民謡は80%以上を占め、北東アジアとの交流が多かったことを意味している」と語った。松田氏は「(加賀藩主の前田家の文化政策と、雪に閉ざされた中で考える時間をもてたことが、包装紙を重視する金沢の独特の文化をはぐくん



だ」と指摘。殿田氏は「能や狂言などの伝統芸能を継承するには、学校教育でも取り上げることが必要」と訴えた。シンポに続き、北東アジア音楽祭が開かれ、石川県の伝統芸能と中国、韓国、ロシア、モンゴルの代表的な民族音楽が競演。仕舞(しまい)や素囃子(すばやし)といった邦楽が披露され、中国の二胡やモンゴルの琴が悠久の調べを奏でるなどシンポジウムに続き、音楽祭が繰り広げられた北東アジア交流プロジェクトIN金沢2003(金沢市の県立音楽堂)【ワシントン13日共同】訪米中の盧武鉉・韓国大統領は十四日午後(日本時間十五日午前)、ワシントンでブッシュ米大統領

「平和

米あ